

第18回 パラミタ陶芸大賞展

恒例となったパラミタ陶芸大賞展も、本年18回目を迎え、来館者による投票という大賞選考方法もすっかり定着しました。今回も、全国の美術館、博物館、画廊、美術評論家の方々から、「時代を代表する陶芸家」を推薦いただき、上位6名の作家をノミネートして、パラミタミュージアムの会場に作品を展示します。

賞の選考は6月7日から35日間の展示期間中に来館者に投票していただき、その結果により大賞を決定します。多数の皆様のご投票をお待ちしております。

展示期間 **2024.6.7金 ~ 7.29月**
 投票期間 **2024.6.7金 ~ 7.11木**

*大賞作家にご投票いただいた方には、パラミタミュージアムより記念品をさしあげます。

パラミタ陶芸大賞発表式 **2024年7月21日(日) 14:00**
 パラミタ陶芸大賞1名 賞金100万円

| 作家名 | 作品タイトル | 制作年 | 高さ | 幅 | 奥行 |
|-------|----------------------|------|----------|----------|------------|
| 伊藤 真美 | 惑星—Planet— | 2023 | 380× | 450× | 435 mm |
| | 満ち潮—Tide— | 2024 | 310× | 540× | 450 mm |
| | 月の底 | 2024 | 355× | 380× | 280 mm |
| | 月光浴 | 2024 | 325× | 255× | 240 mm |
| | 静かの海 | 2024 | 340× | 445× | 365 mm |
| | 宙 | 2024 | 95× | 110× | 95 mm |
| | 宙 | 2024 | 115× | 110× | 290 mm |
| 加藤 真美 | 衛星—Satellite— | 2024 | 200× | 290× | 230 mm |
| | 彼岸(きしべ) | 2024 | 280-405× | 120-190× | 120-190 mm |
| | 満ち欠け | 2024 | 180× | 190× | 170 mm |
| | elemental form X | 2019 | 570× | 250× | 220 mm |
| | elemental form X III | 2019 | 450× | 250× | 250 mm |
| | soaring form VII | 2024 | 610× | 350× | 220 mm |
| | soaring form VIII | 2024 | 650× | 360× | 370 mm |
| | structural vessel V | 2024 | 380× | 370× | 300 mm |
| | structural vessel VI | 2024 | 330× | 220× | 220 mm |
| | structural vessel IV | 2023 | 400× | 350× | 350 mm |
| 馬場 康貴 | soaring form I | 2021 | 440× | 240× | 230 mm |
| | POPS | 2024 | 240× | 10000× | 200 mm |
| | Wavelength | 2024 | 1730× | 1820× | 1820 mm |
| | 岳雲 | 2021 | 270× | 600× | 200 mm |

*会場での展示内容が異なる場合があります。



公益財団法人岡田文化財団パラミタミュージアム
 〒510-1245 三重県三重郡菟野町大羽根園松ヶ枝町21-6
 Tel.059-391-1088 Fax.059-391-1077
<https://www.paramitamuseum.com>
 E-mail=office@paramitamuseum.com

展示作品

| 作家名 | 作品タイトル | 制作年 | 高さ | 幅 | 奥行 |
|------------|--------------|------|-------|--------|--------|
| 伊村 俊見 | 播 24-1 | 2024 | 480× | 840× | 770 mm |
| | 播 23-6 | 2023 | 460× | 610× | 610 mm |
| | 播 24-3 | 2024 | 790× | 560× | 540 mm |
| | 播 24-2 | 2024 | 550× | 580× | 530 mm |
| | 漂 24-4 | 2024 | 530× | 780× | 570 mm |
| | 漂 24-5 | 2024 | 310× | 600× | 430 mm |
| | 膚-パラミタ 24-6 | 2024 | 1410× | 2000× | 40 mm |
| | 播 23-7 | 2023 | 230× | 460× | 440 mm |
| | 漆貫入彩御深井交白釉大壺 | 2024 | 480× | 490× | 470 mm |
| | 唐津漆黒大壺 | 2024 | 465× | 430× | 430 mm |
| 氏家 昂大 | 織部漆朱塗大壺 | 2024 | 470× | 450× | 460 mm |
| | 織部漆朱塗大壺 | 2024 | 460× | 450× | 450 mm |
| | 漆貫入彩白磁大壺 | 2024 | 450× | 450× | 450 mm |
| | 漆貫入彩白釉塊 | 2024 | 300× | 375× | 363 mm |
| | 織部漆朱塗塊 | 2024 | 427× | 400× | 327 mm |
| | 漆貫入彩御深井塊 | 2024 | 370× | 420× | 288 mm |
| | 織部漆朱塗中壺 | 2024 | 305× | 295× | 270 mm |
| | 漆貫入彩白釉花器 | 2024 | 198× | 154× | 145 mm |
| | 漆貫入彩白釉水指 | 2024 | 201× | 212× | 203 mm |
| | 漆貫入彩白磁茶入 | 2024 | 110× | 78× | 70 mm |
| | 漆貫入彩青白磁茶盞 | 2024 | 108× | 146× | 110 mm |
| | 漆貫入彩御深井茶盞 | 2024 | 103× | 122× | 108 mm |
| | 漆貫入彩白釉茶盞 | 2024 | 105× | 130× | 120 mm |
| | 漆貫入彩白磁茶盞 | 2024 | 108× | 144× | 122 mm |
| | 唐津漆黒交織部茶盞 | 2024 | 108× | 152× | 141 mm |
| 漆貫入彩鼠志野茶盞 | 2024 | 100× | 136× | 134 mm | |
| 織部漆朱塗ぐい呑 | 2024 | 82× | 104× | 96 mm | |
| 織部漆朱塗片口 | 2024 | 113× | 183× | 115 mm | |
| 漆貫入彩白磁ぐい呑 | 2024 | 73× | 96× | 90 mm | |
| 漆貫入彩白磁德利 | 2024 | 184× | 117× | 105 mm | |
| 漆貫入彩青白磁ぐい呑 | 2024 | 77× | 89× | 80 mm | |
| 漆貫入彩青白磁德利 | 2024 | 183× | 120× | 120 mm | |
| 漆貫入彩御深井ぐい呑 | 2024 | 75× | 85× | 75 mm | |
| 漆貫入彩御深井德利 | 2024 | 185× | 115× | 110 mm | |
| 唐津漆黒ぐい呑 | 2024 | 74× | 88× | 83 mm | |
| 唐津漆黒片口 | 2023 | 121× | 195× | 125 mm | |
| 漆貫入彩白磁中壺 | 2024 | 336× | 253× | 249 mm | |
| 岡田 泰 | 淡青釉皿 | 2023 | 105× | 535× | 535 mm |
| | 淡青釉鉢 | 2019 | 290× | 460× | 460 mm |
| | 淡青釉花器 | 2024 | 310× | 310× | 310 mm |
| | 淡青釉花器 | 2024 | 330× | 130× | 130 mm |
| | 淡青釉花器 | 2024 | 340× | 130× | 130 mm |
| | 淡青釉茶盞 | 2024 | 100× | 160× | 160 mm |
| | 淡青釉茶盞 | 2024 | 90× | 170× | 170 mm |
| | 淡青釉茶盞 | 2024 | 100× | 130× | 130 mm |
| | 淡青釉華香炉 | 2024 | 150× | 150× | 150 mm |
| | 淡青釉鉢 | 2024 | 100× | 310× | 310 mm |
| | 淡青釉鉢 | 2024 | 150× | 350× | 350 mm |
| | 淡青釉華ノ器 | 2022 | 170× | 180× | 180 mm |
| | 淡青釉華ノ器 | 2022 | 160× | 190× | 160 mm |
| | 淡青釉華香炉 | 2024 | 100× | 130× | 130 mm |

伊村 俊見 (いむら・としみ)



photo: 伊村拓見

〈制作コメント〉

土という素材を扱うなかで、私は粒子の集合体である土が、水の作用によって可塑性が生まれ、指の力や重力など外部のエネルギーによって変化し続け、時には意図と異なる方へ動くことを体感してきました。そのことは私の意識を土の粒子の現象だけでなく、水や空気、火など自然界のあらゆるものに向かわせました。それらは常に変化し続け、不変的な私たちは存在しないと思うようになりました。そのことは私の制作にも変化を与え、かたちをつくるのではなく、かたちが消え去ることを含め変化していく営みを表現しようと考えてようになりました。

陶歴

1961年 大阪市に生まれる
1984年 金沢美術工芸大学彫刻科卒業
1985年 岐阜県立多治見工業高等学校窯業専攻科修了
1994年 第1回信楽陶芸展 大賞(信楽産業展示館/滋賀)
1995年 第4回国際陶磁器展美濃95 陶芸部門 グランプリ
1996年 「現代陶芸の若き旗手たち」(愛知県陶磁資料館)
1999年 「陶芸の現在―土の形態学」(日本橋高島屋/東京、他)
2004年 「非情のオブジェ：現代工芸の11人」(東京国立近代美術館工芸館)
2006年 第4回国際現代陶芸セッションに参加、プエノスアイレス建築デザイン美術館(MARQ)とアルゼンチン国立ミシオネス大学にてプレゼンテーションおよびワークショップを行う
2010年 「光庭 HIKARINIWA2015 伊村俊見・原山健一展」(多治見市美濃焼ミュージアム/岐阜)
2015年 「囊 伊村俊見の陶」(瑞浪市市之瀬廣大記念美術館/岐阜)
2020年 とうしん美濃陶芸作品永年保存事業 令和元年度選定
2022年 個展(ギャラリーなうふ現代/岐阜)(同'04 '07 '10 '13 '16 '19)、個展(スペース大原/岐阜)(同'06 '07 '12 '15 '18)

現在 岐阜県瑞浪市在住

加藤 真美 (かとう・まみ)



〈制作コメント〉

私は子供じみた夢想家です。あえかな月の光や永遠にまどろむ深海に普遍を感じます。全ての彼方、微粒子の静寂。ああ、と溜め息がひとつ洩れるような、そんな景色が見られたらと優しい土に助けてもらいながらこさえています。

陶歴

1963年 東海市(愛知県)に生まれる
1986年 常滑市立陶芸研究所(現とこなめ陶の森陶芸研究所)修了
1987年 第16回長三賞陶芸展 前衛部門新人賞
2013年 第31回長三賞陶芸展 自由部門審査員特別賞(鯉江良二選)
2014年 第21回美濃陶芸庄六賞茶展展 庄六賞
2015年 CERAMICA MULTIPLEX 2016 銀賞(クアアチア)
現在形の陶芸 萩大賞展IV 佳作
2016年 個展「月下・Moon Light-」(新北市鶯歌陶磁博物館/台湾)
個展「月明かり」(東海市立芸術劇場/愛知)
2017年 Earth Pot インスタレーション (Museo Etnográfico de Castilla y León/スペイン)
2018年 「POTs - The Vessels」(National Museum Bangkok/タイ)
第44回美濃陶芸展 大賞
2020年 The VIII International Marratxi Ceramic Biennial 招待出品(スペイン)
2023年 第46回美濃陶芸展 60周年記念賞
現在 愛知県東海市在住

氏家 昂大 (うじいえ・こうだい)



〈制作コメント〉

完璧で整えられた形よりも、不完全な形に惹かれます。人は日々、何か受け入れたい存在を受容しながら、生きているのではないのでしょうか。そのような、逆境から生まれる不安や葛藤という、ある種の異物感を取り込みながらも躍動する生命、エネルギーの可視化を作品に込めています。生きるという鼓動を刻むために。作品が現代を生きる人たちへ、生の応援歌となれば幸いです。

陶歴

1990年 仙台市(宮城県)に生まれる
2015年 東北芸術工科大学大学院芸術文化専攻工芸研究領域修了
2021年 個展(ぎやらりい栗本/新潟)
2022年 個展(The Stratford Gallery/イギリス)
個展(画廊 文錦堂/岐阜)
Design Miami (アメリカ)
Warehouse Art Museum (アメリカ)に作品が収蔵される
個展(銀座一穂堂/東京)(同'19)
2023年 個展(ギャラリー-桃青/京都)
個展(Ippodo Gallery New York/アメリカ)
個展(日本橋高島屋/東京)(同'21)
2024年 個展(B-OWND Gallery/東京)
現在 岐阜県多治見市在住

馬場 康貴 (ばば・やすたか)



〈制作コメント〉

私は磁土という素材から感じる「無機的な力強さ」と「軽やかさ」という素材感を大切に制作している。明暗のコントラストを映し出しやすい磁土は、ピースを一つ一つ階層状に貼り重ねていくことによって徐々に陰を纏っていく。生まれた陰影によって引き出された素材が持つ力強さ、繊細さや軽やかさといった素材感を借りながら、私の想像を超えるような新しい磁器の表現をこれからも模索していきたい。

陶歴

1991年 波佐見町(長崎県)に生まれる
2016年 多治見市陶磁器意匠研究所修了
第3回金沢・世界工芸トリエンナーレ 入選
2017年 多治見市陶磁器意匠研究所セラミックスラボコース修了
第11回国際陶磁器展美濃 銅賞
2018年 第115回有田国際陶磁展 熊本放送賞
2019年 個展「elemental form 馬場康貴の白磁」(西福ギャラリー/東京)
2020年 個展「馬場康貴展」(多治見市陶磁器意匠研究所/岐阜)
2022年 「抽象の彼方へ―好きなかたち展 IV」(ギャラリー-数寄/愛知)
「The Future Eternal 未来への轍 - DESIGNART TOKYO 特別展」(ア・ライトハウス・カナタ/東京)
2023年 「抽象の彼方へ―カナタ移転3周年 特別記念展」(ア・ライトハウス・カナタ/東京)
個展「soaring forms 馬場康貴の白磁」(ア・ライトハウス・カナタ/東京)
The Treasure House Fair (イギリス)、Seattle Art Fair (アメリカ)
TEFAF Maastricht (オランダ)(同'18 '19 '20 '22)
現在 長崎県波佐見町在住

岡田 泰 (おかだ・やすし)



photo: マキタオモリツグ

〈制作コメント〉

萩に生まれ萩で育ち、風土が醸し出す空気を纏い、目の前に広がる日本海の透明感や、ゆったりとどこまでも続く姿をカタチにしていきたいと思います。目を閉じると、萩の海は寄せては返す波の美しさや切なさを感じさせ、常に形を変えながら、いつもそこに存在してくれる温かさを持ち、どこまでも繋がっていきます。そこに流れるゆったりとした時間と清涼感を感じる品のある美しさを常に追い求めて、土と向き合います。

陶歴

1976年 萩市(山口県)に生まれる
2002年 東京造形大学美術学部彫刻科卒業
2005年 京都市工業試験場陶磁器専修科修了
2013年 菊池ビエンナーレ 奨励賞
「日本伝統工芸展60回記念 工芸からKOGEIへ」(東京国立近代美術館工芸館)
2015年 日本陶芸展 優秀作品賞・毎日新聞社賞
2017年 エネルギー美術賞
山口県芸術文化振興奨励賞
2019年 現在形の陶芸 萩大賞展V 優秀賞
2021年 「萩の新潮 萩・岡田窯 岡田泰展」(緑ヶ丘美術館/奈良)
2022年 「未来へつなぐ陶芸―伝統工芸のチカラ」展出品(バナソニック汐留美術館/東京、他巡回)
2023年 日本伝統工芸展 入選(同'09~'22)
伝統文化ボーラ賞 奨励賞
2024年 陶美展 入選(同'13~'21)
現在 山口県萩市在住

矢部 俊一 (やべ・しゅんいち)



〈制作コメント〉

「空間を刻む」という概念に基づいて制作しています。今回は社会性を内包し、鑑賞者が作品と対話できる要素を取り入れた体験型作品となります。制作意図やタイトルとの関連性を想像することで、作品との繋がりが築かれ、心に新たな波紋が生じます。

陶歴

1968年 備前市(岡山県)に生まれる
1992年 名古屋芸術大学彫刻科卒業
1993年 帰郷し、祖父山本陶秀(人間国宝)、父矢部篤郎の指導を受ける
2013年 グループ展(Marianne Heller Gallery/ドイツ)
2014年 AIFAF (アメリカ)、Collect (イギリス)(同'13)
2015年 彫刻展「88」(FEI ART MUSEUM YOKOHAMA/神奈川)
2016年 「備前×矢部俊一×信楽」(滋賀県立陶芸の森)
2017年 「焼締―土の変容」(アメリカ、他海外巡回)
2018年 Ceramic Art Bizen in Shizutani (旧閑谷学校国宝講堂/岡山)、TEFAF (オランダ)(同'14)
2019年 「The 備前―土と炎から生まれる造形美―」(東京国立近代美術館、他巡回)
2022年 「矢部俊一展―空刻」(兵庫陶芸美術館)
2023年 個展「矢部俊一展 空刻 COMPLEX」(日本橋高島屋/東京)
現在 岡山県備前市在住